MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．５．２４　発行元
第 480 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

船戸与一『南米三部作』

船戸与一の南米を舞台にした壮大な冒険小説の三部作。『山猫の夏』『神話の果て』『伝説なき地』を取り上げる。いずれも大作で、読む前にはその本の厚さに圧倒されるが、実際に読んでみると止まらなくなる傑作。

冒険小説の到達点

「ミステリ」というよりは「冒険小説」の分類になるのだろうが、面白さという点においてはジャンルを超越していると言えるだろう。

船戸与一は１９７９年にデビューした作家。でも、もう数年後に最高地点に到達したことになる。当初はアルゼンチンも候補として考えたようだが、ブラジル、ペルー、ベネズエラの三か国が舞台となる。三部作とは言いながら、まったく別個の物語で登場人物などに共通するものはない。さまざまな人種が入り乱れ、政情も安定せず、そんな中で生活する南米の人々に密着した物語。自分の力以外に頼るものはない過酷な環境の中で、生死をかけた戦いに挑んでいく話が連続していく。

その後の日本の「冒険小説」に多大な影響を与えた三部作。

『山猫の夏』

１９８４年講談社。第一作になるが、後の二冊と異なるのは「おれ」という日本人青年の視点で描かれているということ。「おれ」の目を通した「山猫」と呼ばれる人物の物語。

「おれ」は日本に居ずらくなってブラジルにいる伯父を頼りにエクルウという小さな町に流れ着いた。その町ではビーステルフェルト家とアンドラーデ家が長い間対立していた。その両家の長女と長男が駆け落ちしたことがすべての始まりだった。まるで『ロメオとジュリエット』だ。ビーステルフェルト家から依頼を受けた「山猫」と名乗る日本人が目の前に現れ、町は一気に緊迫感に包まれる。「おれ」は突然「助手」にさせられ、追跡隊に組み込まれる。アンドラーデ家の方でも隊が組まれ、半砂漠と熱暑の中で競争が開始される。そこに地元の盗賊の絡んで…。この追跡劇が本書のメインなのかというとそうではない。再びエクルウの町に戻った後の展開が大きな山場になっていく。「山猫」が考えていることが何なのか周りにいる人には見当がつかず…。この「山猫」の人物像そのものがミステリであり、南米の抱える課題に結び付くのだが…。

『神話の果て』

１９８５年双葉社。『小説推理』に連載したものに大幅加筆して単行本にしたもの。南米ペルーが舞台。壮大なアンデス山脈を背景に壮絶で緊迫した場面が連続していく傑作。

ニューヨークに住む破壊工作員・志度正平が主人公。最初に登場する時は酔っぱらいのタガが外れた状態で描かれているが、巨大企業アングロ・アメリカン鉱業から仕事の依頼を受けると別人に変身する。今回の仕事はペルーの山岳地帯に潜むゲリラの首領抹殺を請け負うことになる。

アメリカ出発時点で別ルートで活動するカンボディア人が志度に対抗するように動き始めるのだが、志度にはその情報が伝わらない。ペルーに到着し、日系人の活動家に化けた志度は、二人のインディオとともに山岳地帯へ出発する。山岳地帯にはウラン資源があるらしいのだが、現在はゲリラ組織の基地になっているという。

標高４０００ｍを一気に登り…。国家警察反テロ部隊、ゲリラ《輝かしき道》派、そして志度を暗殺しようと狙う一派などが入り乱れて抗争を展開。志度は依頼された目的を達することができるのか…。

「伝説なき地」

１９８８年講談社。本書が三部作の締めくくりで最高傑作となる。『このミステリーがすごい！』が発刊され始めた年で最初の年間ランキング第一位に選ばれている。ベネズエラが舞台なのだが、コロンビアとの国境地帯で、コロンビア側から難民が多数入り込んでいることがポイントになる。

第一章で登場してくるのは牧畜業を営むベルトロメオ・エリゾンドの一家。マラカイボに近く、かつては油田地帯として栄えていたが、油田は涸れてしまい、牧畜もじり貧に追い込まれている。そこへ日本人がやってきて地下資源の調査を行い、レアアースを発見することに。採掘の権利を巡ってエリゾンド家で内紛が起こる。父親と子どもたちの対立である。お金に目がくらんだ人達とそれに絡む愛人・ベロニカとのやり取りの中で…。第二章ではサンタマルタ刑務所に収容されている丹波春明が登場。刑務所内の劣悪な関係を打開するために丹波は行動を迫られる。第三章では鍛冶司朗が現れ…。やがてこれらの関係者は国境の近くへと収束していく。エリゾンド家の土地に入り込んで住みついたコロンビア難民の中に「マグダレナのマリア」と呼ばれる聖女が出現し、近く祭りが行われるとの噂が流れていく。レアアースの巨額の利益に突き動かされる人々の行動は破滅に向かってどんどん進行していく。息をつがせぬ激しさに満ちた波乱万丈のストーリー展開。